

茶の里に土壁を作らない風習のある集落

—— 大子町左貫



県内には禁忌と呼ばれる、何かをしてはいけないという風習があちこちに残っています。

大子町左貫地区にある鎮守・花室神社の氏子たちの間には「土壁と紅花をつくるべからず」という言い伝えが残っています。

これは花室神社の祭神木花咲耶姫が皇孫ニギノミコトとの間で懐妊した際にお腹の子種を疑われてしまいました。姫は土で作った部屋に入って3人の子どもを産み、火を放ち身の潔白を明かしたという古事記や日本書紀の記述に由来しています。

火の燃え盛る際に生まれたのは火照命、火須勢理命、火遠理命といわれます。

氏子たちは姫のつらい思いを察して土蔵や土壁を作らない、派手な装いを慎むため口紅の原料となる紅花は作らない——という信仰が伝わってきたのです。

昔から太陽は「日の眼」と呼ばれていました。日(火)は天界からあらゆるものを見下ろして、正邪を判断し、正しいものは火にも犯されないという気持ちがこの伝説の背景にあったようです。

さて、間もなく「夏も近づくと八十八夜」。花室神社のある左貫地区は奥久慈茶の産地です。お茶の生産地としては国内でも最北端の土地で、同地区には茶摘みや手もみ(要予約)の体験や物産館、レストラン、和紙人形美術館などの施設のある「奥久慈茶の里公園」があります。新茶と新緑の季節が到来しました。大子町巡りをドライブの1ページに加えてみてはいかがでしょうか。

〈参考文献〉大子の傳説 石井良一著ほか



【問い合わせ】大子町観光協会 TEL.0295-72-0285
【アクセス】常磐自動車道「那珂I.C.」から国道118号利用、約50km

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>